

1 自己評価及び外部評価結果

【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	4390100289		
法人名	医療法人社団郁栄会		
事業所名	認知症高齢者グループホーム サンライズ楠野		
所在地	熊本市北区楠野町1069-1		
自己評価作成日	令和元年 7月 25日	評価結果市町村報告日	令和元年9月30日

※事業所の基本情報は、公表センターページで閲覧してください。(↓このURLをクリック)

基本情報リンク先	http://search.kaigo-kouhyou-kumamoto.jp/kaigosip/Top.do
----------	---

【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	NPO法人 九州評価機構
所在地	熊本市中央区神水2丁目5番22号
訪問調査日	令和元年8月22日

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

○かかりつけ医への受診と医療連携:隣に協力医療機関があり、入居者は職員の付き添いで受診や通院が出来る。常勤の看護師や他の職員が入居者の変化や異常の早期発見に努め、協力医療機関と連携をとる体制を取っている。グループホーム内で点滴やリハビリを受ける事が出来る。また、御家族の思いを尊重し主治医と連携しながら看取りについても対応している。
 ○普段行けない場所への外出支援:ドライブ・神社・季節の花見・ショッピングセンター・回転寿司等、車や車椅子等を利用して屋外に出る行事を計画的に実施している。
 ○楽しみ事・気晴らしの支援:日々のレクリエーションや毎月のボランティア(舞踊・楽器演奏・歌等)・誕生会・家族参加の行事を計画的に実施している。
 ○季節の行事や入居者の希望や状態に応じた調理法で提供出来る。

【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

訪問時に入居者と職員の明るい声で迎えられ、理念である「安心・楽しい・きれい」を感じることで出来る事業所では、入居者はテレビを見たり新聞を読んだり、また、散歩や通院と、それぞれに日常生活を過ごす様子がうかがえました。日頃のケアでは「センサーに頼らず五感を大切にすること」が実践され、「慌てることなく落ち着いた」ケアが行われていることが入居者の穏やかな笑顔に表れているようです。医療機関が隣接していることも入居者や家族に安心を与えています。これから、入居者一人ひとりの生活を支えるため、そして穏やかな生活のための取組が継続することに期待しています。

V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目No.1~55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

項目		取り組みの成果 ↓該当するものに○印	項目	取り組みの成果 ↓該当するものに○印	
56	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:23,24,25)	○ 1. ほぼ全ての利用者の 2. 利用者の2/3くらい 3. 利用者の1/3くらい 4. ほとんど掴んでいない	63	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている (参考項目:9,10,19)	○ 1. ほぼ全ての家族と 2. 家族の2/3くらいと 3. 家族の1/3くらいと 4. ほとんどできていない
57	利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:18,38)	○ 1. 毎日ある 2. 数日に1回程度ある 3. たまにある 4. ほとんどない	64	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,20)	○ 1. ほぼ毎日のように 2. 数日に1回程度 3. たまに 4. ほとんどない
58	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:38)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	65	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが拡がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4)	○ 1. 大いに増えている 2. 少しずつ増えている 3. あまり増えていない 4. 全くいない
59	利用者は、職員が支援することで生き生きした表情や姿がみられている (参考項目:36,37)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	66	職員は、生き活きと働けている (参考項目:11,12)	○ 1. ほぼ全ての職員が 2. 職員の2/3くらいが 3. 職員の1/3くらいが 4. ほとんどいない
60	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:49)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	67	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない
61	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている (参考項目:30,31)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	68	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	○ 1. ほぼ全ての家族等が 2. 家族等の2/3くらいが 3. 家族等の1/3くらいが 4. ほとんどできていない
62	利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らせている (参考項目:28)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない			

自己評価および外部評価結果

[セル内の改行は、(Altキー)+(Enterキー)です。]

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
I. 理念に基づく運営					
1	(1)	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	理念を「安心・楽しい・きれい」と決め、理念の元にケアの実践・生活の場・環境を作る事を心がけている。又、新任職員の入職時や家族との契約時・広報紙・運営推進会議でも伝え理念の共有に努めている。	設立時に職員で考えた理念はケアや生活に表れている。職員は入職時より理念を学び、広報誌や運営推進会議を通じて家族や地域にも伝えている。リビングにも掲示されており、入居者や職員との日常生活の話題にものぼっている。	
2	(2)	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	ホーム周りの散歩や隣の神社、買い物へ出掛けた時に、近所の方達と挨拶や会話等の交流を持ち地域の方達との交流支援に努めている。	事業所近隣は住宅街であることから、散歩中も地域住民との挨拶や会話も見られる。地域に馴染みのある入居者もあり、散歩に出向くことが出来る入居者も多いため、日常的な近所づきあいが営まれている。	
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	民生委員やご家族から地域の一人暮らし高齢者・認知症の方の相談を受け、相談内容によっては地域包括支援センターへ繋げたりしている。ホームにボランティア来訪時は民生委員を通して地域の高齢者の方への案内声掛けを依頼している。		
4	(3)	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	二か月ごとに(偶数月)開催し、サービスの提供等活动報告を行っている。入居者様の御家族・地域の自治会長・民生委員・地域包括支援センター職員等に参加して頂き、必要な要望や意見・助言等を聴く機会を設けている。	運営推進会議には家族や地域からの参加もあり、入居者の状況報告だけでなく、日頃の事業所の活動も報告している。入居者や近隣住民の高齢化も見られ、地域と行政を結ぶ大きな役割も担っている。	
5	(4)	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くよう取り組んでいる	二か月おきに(偶数月)、熊本市の介護相談員を受け入れて、入居者様の状況を見て頂き、実情やホームの取り組みを伝えている。又、介護相談員からの報告書でも入居者様の気持ちを把握出来、ケアに活かす様に努めている。	市より介護相談員を受入れ、入居者の状況や事業所の日頃の様子を見て頂く機会としている。入居者の言葉は日々のケアにも活かされている。運営推進委員会等も利用して地域と行政を繋ぐ役割も持ち、日頃からの協力関係を築くよう取り組んでいる。	
6	(5)	○身体拘束をしないケアの実践 代表者および全ての職員が「介指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	勉強会を行い、スピーチロックも含め拘束をしないケアに努めている。又、身体拘束等の適正化の為に指針を整備し、職員間で周知理解に努めている。ホームは、安心安全の為にセキュリティシステムを導入しているが、入居時に御家族へ説明し同意を得ている。日常は、入居者様の思いに沿い外出や洗濯物干し等職員付き添いで自由に出て、外気を感じる事が出来る様にしている。	法人で委員会を設置しており、職員を対象とした身体拘束をテーマとした勉強会には基本的に事業所の全職員が参加するようにしている。安全確保のため入居者の外出は職員同伴とはなるが、行動を拘束しないケアを行っている。	
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	法人内の勉強会や外部の研修会へ参加し、報告書の提出や、職員会議での振り返りを行い、情報を共有する事で虐待防止に努めている。		

認知症高齢者グループホーム サンライズ楠野

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	ホーム内での勉強会や外部の研修へ参加して学んだ事を報告書の提出や、職員会議で研修内容を報告してもらう事で情報の共有を行っている。		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	入居に際し、見学も含めて事前に訪問したり面接を実施し、サービス内容・契約内容の説明を行い理解と納得を図っている。		
10	(6)	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	面会時に入居者様の状況を伝え、意見や要望を聴いている。遠方の御家族へは電話や写真・年6回発行の広報紙を送り、状況を報告している。又、御家族へ運営推進会議の案内を行い参加してもらい、運営に反映させる様にしている。	全体的に家族の面会も多く見られ、面会の際には職員から声を掛け、意見を頂くようにしている。2ヶ月毎の運営推進会議開催には毎回全家族へ参加呼び掛けを行い、参加頂くことで普段の様子を見て意見を得る機会としている。	
11	(7)	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	毎月の職員会議に法人の幹部職も参加し、職員の意見や思いを伝えたり、日頃の取り組み等の報告を行い、意見交換や反映の場としている。	月1回の職員会議には法人幹部の参加もあり、職員の意見を聞く機会にもなっている。最近の会は職員の働き方が話題に上ることもあり、働きやすい職場作りにも努めている。	
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	職員の資格取得や家庭の事情・病気療養等の勤務調整や療養後の職場復帰時には無理のない様な勤務体制にしている。又、職員個々の事情要望を把握し、旅行等リフレッシュ出来る様職場環境の整備を行い、やりがいや向上心を持てる様に努めている。		
13		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	職員個々の経験や力量を見て外部研修や法人内の委員会、主任研修、新人研修、中堅研修、介護部研修、看護部研修へ参加している。法人内勉強会でも外部講師を呼んでの勉強会も準備されており、研修を受け易く、スキルアップの機会の確保が出来ている。		
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	外部の研修へ参加し、情報交換や意見交換等お互いのサービスの質の向上に努めている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
II. 安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスを導入する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	入居前に病院・施設へ訪問したり見学に来て頂き、生活歴・既往症・趣味を伺う様にしている。入居に至る迄の間は、納得される迄見学に来て頂いたり相談を行う等、安心して入居後の生活を送って頂ける様に努めている。		
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスを導入する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	必ず見学・面接と何度か来て頂き、ホームの生活を見て頂いている。その中で、御家族の思い・要望等を伺い、信頼関係を築く様にしている。又、入居後もコミュニケーションを多く持ち、本人が安心して暮らせる様に一緒に関わられる関係作りに努めている。		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスを導入する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	御家族・入居者様の意見・思いを聴き、その時必要とされている支援は何かを見極め、主治医やケアマネジャー等と相談の上、他のサービスも含めた対応に努めている。		
18		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	日々の生活の中で、食事や家事活動を共同で行い、支え合う関係が出来ている。職員は、あらゆる面で教えられ、逆に励まされたり、会話の中で沢山のヒントや気持ちを頂いている。職員も入居者様にケアされて成長していると感じている。		
19		○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	面会が遠のかれている御家族・遠方の御家族には、日頃の様子を電話や書面で報告している。面会時には必ず状況報告や要望はないか、御家族とのズレがないか確認する様にしている。又、大きな行事には御家族にも呼びかけ、本人と過ごす時間を大切にしている。御家族との絆を大切にしながら日頃のケアに関しても必ず相談し、御家族と共に支える関係作りに努めている。		
20	(8)	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	近隣の神社や生活されていた地域へのドライブや買い物へ出掛け、人や場所の関係が途切れない様に支援している。	以前からの生活に馴染みのある場所へのドライブや買い物等、それぞれの様子に応じた支援を行っている。家族との繋がりも大切にしており、事業所を介した入居後の新たな繋がりも支援している。	以前の入居者家族との関係も継続し、来訪されている様子も聞くことができました。事業所を馴染みの場とする関わる方々の様子をうかがうことができました。
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せず利用者が同士の関わり合い、支え合えるような支援に努めている	役割活動を通して、入居者様同士が円滑に関われる様に職員が間に入りながら関係作りをしている。又、合同レクリエーションや食事・テーブル席の配置等に配慮し、入居者様同士が協力し合ったり対話等、関係作りが出来る様に努めている。		

認知症高齢者グループホーム サンライズ楠野

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	契約終了後も施設や病院へ面会に行き、顔を合わせて様子伺いを行い、相談や支援を行う様にしている。又、夏祭り等の行事への参加案内を出し、これ迄の関係が途切れない様に努めている。		
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
23	(9)	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	日常の何気ない会話や動作に本人の思いが出ていると考え、その事に気付くよう記録に残している。情報を共有して、全職員の目や耳、全身で感じ、思いを様々な視点から捉え、入居者様の気持ちに沿える様に努めている。	事業所ではセンサーに頼らない、「目・耳・感じるケア」を実践されており、職員から入居者への声掛けは「安心」を意識して行っている。情報は職員で共有し、入居者の意向に沿う様支援している。	
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	入居者様や御家族・ケアマネジャー等から入居前の情報収集や、入居後も入居者様との会話の中や御家族からの情報提供を貰う等して把握に努めている。		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	これ迄の人生の一片を語られたり、思い出話をされたりするので、一つの言葉や行動を大切にそれらに気付く様にしている。御家族・知人の面会時に情報の収集を行っている。		
26	(10)	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	入居者様や御家族からは要望・生活歴・趣味等を、主治医からは医療面での意見・助言をもらい、ケアプランの作成を行っている。又、職員間での定期的なケアプランの評価・見直しを行い、現状に即したケアプランを作成している。	入居前に本人と直接面談し、医師や家族との話し合いで介護計画を作成し、入居後は担当する職員と管理者で作成する。担当者は、毎月「ケアプラン実施表・評価表」により評価・コメントし、基本的に3ヶ月毎に介護計画の見直しを行っている。	入居者それぞれに合わせた個別のリハビリも行われており、担当者を中心に入居者の暮らしについて考え、評価し、共有する体制が整えられています。
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	1ページで1日の様子が分かる様な記録用紙にしている。食事・排泄・健康観察やその日に行ったレクリエーションや活動等の記録を個人別に記録し情報の共有に努め、ケアプラン作成に繋げている。		
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	入居者様・御家族の状況に応じて、通院や送迎等に対応している。医療連携を取りながら点滴等の支援が出来る。併設のデイサービスとの交流を支援している。又、理美容サービスが利用できる様にしている。		

認知症高齢者グループホーム サンライズ楠野

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	近隣のホームセンターや食料品店へ日用品やおやつや食材の買い物へ出掛けたり、地域の神社や公園への外出等、季節ごとに様々な行事を企画し豊かな暮らしを提供している。		
30	(11)	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	入居前のかかりつけ医を尊重しているが、入居時に協力医の説明を行い、入居者様や御家族の希望するかかりつけ医としている。専門科は必要に応じて御家族と一緒に受診する様にしているが、職員だけの通院介助の場合は御家族に受診結果を都度報告、情報を共有する様にしている。	入居前からのかかりつけ医を継続して受診することができる。現在では隣接する医院を希望される入居者が殆どで、職員の通院介助で受診する。その他専門医は家族の協力も得ながら職員での通院介助も行う。協力歯科医からは往診を受けている。	
31		○看護職との協働 介護職は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	主任が看護師であり、日々の状況を把握し、他の職員への助言をしたり、他の職員からの報告を受けた際には早めの受診等、必要に応じて対応している。		
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、又、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	入院先の病院と情報交換を行い、医師や病院関係者との連携をし退院後のケアの方針について御家族とも相談し必要な支援を行う様にしている。		
33	(12)	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	入居前や入居後にホームで出来る事、出来ない事を伝えたりケアプラン説明時や御家族面会時に状態を報告し、主治医・御家族と相談しながら方針、支援を行い必要に応じて専門医や他の施設を紹介している。又、実際に終末を迎える時期となり、御家族がホームでの看取りを希望された時は、主治医・看護師・事業所職員・御家族と何度も相談を重ねながら取り組んでいる。	入居時に重度化や終末期に関する事業所の対応を説明し同意を得ている。実際にその時を迎えた際には家族と都度話し合いを重ね、主治医・看護師他関係者と相談を重ね取り組んでいる。家族も入居者の部屋に宿泊し、家族・事業所連携で取り組んだ様子もうかがえた。	
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	緊急時の対応や緊急連絡網等、隣接の病院との協力体制が出来ている。母体病院が隣にあり24時間、医師・看護師が対応可能である。		
35	(13)	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	半年に一度、消防訓練(昼・夜間想定・地震・風水害想定)を入居者様も参加して実施している。隣接病院との合同訓練も実施し連携を図っている。定期的な消防設備点検や緊急連絡網の見直し、近所の入居者様の御家族や自治会へ運営推進会議で依頼し、協力体制を築いている。	消防訓練は隣接事業所と昼・夜間で、また事業所単独でも行っている。避難訓練以外でも、職員の連絡網の見直し、通報装置の操作確認、誘導時の経路確認、非常食保管場所の周知、避難場所の確認等、万一の場合に備え、職員間での周知にも力を入れている。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
36	(14)	○一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	法人の委員会活動を通し個人情報についての周知徹底をしている。日々の生活においてもプライバシーを損なわないよう対応している。入居者様一人ひとりを尊重し、日頃よりプライバシーに配慮した言葉かけや対応を心がけている。	個人情報の取り扱いは職員会議やミーティングで話し合いの機会を持ち、書類の持出し禁止等取り決めを持ち、職員へも周知している。入居者一人ひとりを尊重し、言葉遣い等にも配慮している。	
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	入居者様が分かり易い言葉かけや対応を心がけている。入居者様の関心事や要望を見極めて自己決定が出来る様な雰囲気や場面作りに努めている。		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	基本的な流れはあるが、入居者様本位に生活ペースを尊重している。心身の状況や生活習慣・嗜好やその時々のお気持ちに対応した柔軟な支援を行う様にしている。		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	お買い物の支援を行っている。本人の好みの洋服選びをしたり、手先のお洒落を楽しまれる等、一人ひとりに合った支援に努めている。		
40	(15)	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	本人に合わせてソフト食やミキサー食・一口サイズにカットして提供している。配膳や下膳と一緒に準備を行い食事の時間を楽しんで頂いている。又、入居者様の好みを聴き、献立から共に考え職員と共に調理を行い食事を楽しんでいる。	法人の厨房で作られた食事の配膳や事業所での食事の手作り等、入居者の出来る範囲での関わりも見られる。毎月給食に関する会議で意見交換が行われ、「免疫力を育てる食事」をの考えで工夫を凝らしている。	配膳・下膳等、入居者それぞれが出来ることでの関わりが見られ、互いに助け合い声を掛け合う様子がうかがえました。食事時は職員も共に過ごし、大切な時間とされている様子が見えました。
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	管理栄養士による献立で栄養管理されている。毎回食事と水分摂取量を観察記録している。その方の状態に合わせて刻み・粥・コーヒー・紅茶・ゼリー等で提供している。夜間のトイレ覚醒時にも飲水を勧め支援している。		
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	毎食後、声掛け誘導し、介助が必要な入居者様には付き添いや介助にて実施している。夜間は、義歯を洗浄液に浸漬している。協力歯科医院(新地ハロー歯科)と連携して必要に応じて訪問治療や通院治療で指導を受けている。		

認知症高齢者グループホーム サンライズ楠野

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
43	(16)	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	日中は全員トイレでの排泄を実施している。介助の必要な方も職員2名で排泄介助を行いトイレでの排泄を促している。又、排泄チェック表を活用し排泄機能の維持と低下を防止する様支援を行っている。	現状、おむつや尿パットの利用も見られるが、日中は全員トイレへ誘導し排泄の自立に向け支援している。夜間は尿意に応じ個々に対応している。夜間は必要により居室でのポータブルトイレ利用もある。	
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	起床時に牛乳や白湯を提供、おやつにヨーグルトや芋を使い工夫をしたり、散歩や腹部マッサージ等を行い自然排便を促す工夫をしている。		
45	(17)	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めず、個々にそった支援をしている	入浴は週に2回、入居者様の希望を確認して実施している。汚染時やその時の状況に合わせて入浴回数が増えたり、清拭に変更したり、入浴時間も本人の希望・状況に応じて午前・午後と柔軟に対応している。	週2回を基本とし、汚染・発汗等の状況や希望により都度対応しており、利用時間は午前・午後とも可能である。その時々状況で入浴が難しい場合には清拭を行い、清潔を保持している。	
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	レクリエーションや散歩・日光浴の実施で日中の活動性を高め、生活リズムを整えるように努めている。一人ひとりの体調や思いを尊重し、状況に応じて昼間の臥床休憩時間や自室で過ごされる時間を設けている。		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	内服紹介ファイルで、常に薬の効用や副作用を確認出来る様にしている。誤嚥防止の為に定期分は一包化したリトリブルチェックを行い服薬支援をしている。又、主治医へも服用後の状態等細目に報告し連携を図っている。		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	日常生活の中で、出来る事・出来ない事を知り、洗濯物干しや取り込み・ゴミ出し・食事の配膳等の役割の支援をしている。買い物やドライブ・ボランティアによる演芸会等の楽しみ事への支援も行っている。		
49	(18)	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。又、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるよう支援している	本人の希望や状態に応じて洗濯物干し・マッサージ・散歩・買い物等個別対応と、季節に応じての花見・神社参拝・外食等を定期的に計画している。	事業所が2階であることから、安全面も配慮し入居者一人での外出は出来ないが、職員との買い物や散歩、隣接事業所でのマッサージ等、職員同伴での日常的な外出が見られる。洗濯物干し等、ベランダでの風を感じることもできる。	

認知症高齢者グループホーム サンライズ楠野

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	御家族より、お小遣いとして預かり、職員管理で金庫内に保管、外出時に本人好みのおやつや日用品の購入を職員付き添いのもと行っている。		
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	親しい方からの葉書や年賀状が届いたり、入居者様からも職員と共に年賀状を書き近況を伝える事の支援を行っている。又、個人で携帯電話を持たれていて自由に御家族や友人へ連絡を取られたり会話を楽しむ事が出来る様に支援している。		
52	(19)	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	ソファコーナーや畳コーナー・食事やおやつ等を手作りする食堂があり、入居者様の気分や活動の目的により使用している。フロアは、好みに合わせて寛げる様に季節の花や壁飾りで配慮している。日頃から五感や季節感を感じる事が出来、居心地良く過ごせる様に工夫している。	共有スペースである食堂、ソファコーナーを囲むように居室が配置されている。手作りの飾りは季節毎に楽しみ・話題を提供し、訪問時は夏祭り前であったため、心躍る飾りがなされていた。	共用空間はすっきりと片付けが出来ており、共用スペースを歩く入居者も安心して過ごせる環境でした。理念「安心・楽しい・きれい」を感じることができました。
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	ソファコーナー・リビング・畳コーナーがあり、季節や一日の時間の中で好みの場所で横になれたり、テレビを視たり、読書に集中出来たり、自由に好みの場で過ごして頂ける様に工夫している。		
54	(20)	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	洋間・和室の2タイプの居室があり、写真・塗り絵・趣味で作られた作品・縫いぐるみ・人形等を居室に飾り、居心地の良い部屋となる様に工夫している。	和・洋タイプの居室には収納と洗面が完備され、入居者により使い慣れた生活用品や趣味の物等、それぞれが落ち着いて過ごすことのできる空間である。	
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	居室入口からホール全体が見渡せ、トイレ・浴室・居室が分かる様に、入居者様が好まれる物を目印に飾ったり、職員手作りののれん等で視覚に訴え活動の場を増やす工夫をしている。		

2 目 標 達 成 計 画

事業所名 サンライズ楠野グループホーム

作成日 令和元年 10月 4日

【目標達成計画】

優先順位	項目番号	現状における問題点、課題	目 標	目標達成に向けた具体的な取り組み内容	目標達成に要する期間
1	20	馴染みの人や場との関係 継続の支援	今後も家族や友人・知人、地域の方々が訪問しやすい環境作りや、地域の馴染みの場所へ出掛ける機会をつくり、これ迄築いてきた関係が途切れる事の無い様にする。また、入居者様の入れ替りもあり新しい御家族様との関係作りにも取り組む。	<ul style="list-style-type: none"> ・今後も家族や友人・知人等の来訪を受け入れ、入居者様が築いて来られた関係を継続出来る様に支援すると共に、新しく入居された御家族様へ当ホームの取り組みやケアの方針内容を細目に報告連絡を行い信頼関係が築ける様に取り組む。退居となられた入居者の御家族様とも行事の際等は声掛けを行い関係が途切れない様に取り組む。 ・地域の方々との関わりを大切に、地域の神社や買い物などへ外出する機会を設け馴染みの人物や場との関係が途切れる事のない様に支援する。 	1 2 か月
2	33	重度化や終末期に向けた方針の共有を支援	徐々に認知症や身体機能の低下著名に見られたり、当ホームでの看取りを希望される御家族様が殆どであり、御家族や主治医、医療機関との連携を密にし、本人様と家族の思いを把握し支援にあたる。	<ul style="list-style-type: none"> ・入居者様の身体状態等に変化が見られた際や終末期となられた時は、御家族や主治医、事業所職員と共に相談を重ね、その時その時の御家族の思いを聴き重ねていき、思いに沿える様に支援する。 	1 2 か月
3					

注1) 項目番号欄には、自己評価項目の番号を記入すること。

注2) 項目数が足りない場合は、行を追加すること。